

つながる力

《No. 25》



第10回総会、7月30日にオンライン開催！



延期を余儀なくされていた第10回総会は7月30日、オンラインで開催し、全国から38名が出席しました。承認された2023年活動方針等は12~14頁に掲載しています。ぜひご覧下さい。

《目次》

デニー知事に要請 南部土砂問題と生物多様性国家戦略を再度の不承認理由に	2~3
23年9月2日付け 琉球新報「論壇」浦島悦子「不当判決に負けるな！」	4
《沖縄県本部町》 大浦湾への土砂搬出を許さない！	原田みき子 5
濟州島・沖縄・台湾を結ぶ「東シナ海」を共存と平和の海に！	沖本裕司 6~7
沖縄からの声	西平守伸 7
「生物多様性国家戦略 2023~2030」 9月2日オンライン学習会開催	里道昭美 8
《沖縄県名護市》 壊死する辺野古の風景	立田卓也 8
《三重県津市》 7月16日、三上智恵さん講演会開催	中村吉且 9
《大分県》 軍事要塞と化す大分・九州・琉球弧	富田正史 10
辺野古土砂全協第10回総会報告	池田年宏 11
沖縄からの便り19 「台湾有事を起こさせないために」	松本宣崇 12~14
事務局次長就任あいさつ	浦島悦子 15
	立田卓也 16

写真提供 阿波根美奈子 沖本裕司 中村吉且 長谷川隆広 池田年宏 浦島悦子 立田卓也

沖縄県の辺野古埋め立て不承認を巡る裁判で、8月24日付新聞で、最高裁判決で県の敗訴確定の見通しと報道されました。これを受け辺野古土砂全協は、デニー沖縄県知事にあて、これまでの不承認を支持するとともに、再度の不承認を求め要請文を提出しました。まだ間に合います。団体・個人を問わず、全国からデニー知事に支持と、再度の埋め立て変更申請不承認の声を届けましょう！

2023年8月30日

沖縄県知事 玉城デニー 様

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会
共同代表 阿部悦子（環瀬戸内海会議）
大谷正穂（辺野古に土砂を送らせない山口の声）
事務局長 松本宣崇（環瀬戸内海会議）
〒700-0973 岡山市北区下中野 318-114

役員 城村典文（自然と文化を守る奄美会議） 當島勝文（徳之島三町護憲平和フォーラム）
磨島昭広（鹿児島に米軍軍はいらない県民の会） 湯浅一郎・末田一秀（環瀬戸内海会議）
歌野敬（五島列島自然と文化の会） 鈴木慶子（辺野古土砂搬出反対うきの会・熊本）
松本秀樹（辺野古土砂ストップ北九州） 安部真理子（海の生き物を守る会）
新田秀樹（広島と沖縄をむすぶドウシグラー） 富田恒子（小豆島環境と健康を考える会）
柴田天津雄（辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会） 大坪満寿子（南大隅を愛する会）
溝渕裕子（辺野古に基地を作らせない香川の会） 毛利孝雄（辺野古土砂搬出反対！首都圏G）

私たちはデニー知事を支持します。

—— 南部土砂問題と生物多様性国家戦略を、再度の不承認理由に ——

デニー知事におかれましては、辺野古新基地建設を巡る国との関係で困難な諸問題に立ち向かっておられることに感謝申し上げます。

去る8月24日、大浦湾の軟弱地盤改良工事に対する知事の設計変更不承認を巡る裁判において、最高裁で「沖縄県敗訴の見通し」との報道がありました。これを受けての記者会見で、知事は「技術的にも法律的にも県の判断は正しい」「辺野古新基地建設に反対する思いはいささかも変わらない」とおっしゃいました。私たちは知事の決意に勇気と希望をいただき、全国からデニー知事を支え、出来る限りの行動を起こしていきたいと考えています。

私たち「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」は2015年、「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」を合言葉に発足しました。国が、辺野古埋め立てに使う予定の土砂の7割を沖縄県外12県（三重県のケーソンも含む）から搬出することに反対して結成した全国組織です。沖縄への県外土砂の搬入は「特定外来生物」問題など多くの問題があること、「生き物の宝庫・世界の宝」ともいわれる辺野古の海を埋めるだけでなく、「本土」側の環境破壊などを引き起こすことに異議を唱え、2019年6月には国に対し、全国から集めた60万筆余の反対署名を提出しました。

2021年4月、防衛省は設計変更申請を行い、その中で、本土側土砂搬出の大幅削減（鹿児島県、熊本県は残しつつ）と、同時に沖縄県の遺骨混じりの南部土砂の大量搬出計画を発表しました。私たちは、国の身勝手さに怒るとともに、「捨て石」とされた戦没者の遺族や沖縄の人々のお心を思い、改めて「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」と決心し、「南部土砂自治体意見書採択」の運動にも取り組んできました。

さらに、私たちが取り組んできたものに生物多様性の問題があります。昨年12月、第15回生物多様性条

約の締約国会議は「昆明・モンテリオール生物多様性枠組み」という新たな世界目標に合意し、今年3月、我が国は生物多様性基本法に基づき新たな生物多様性国家戦略を閣議決定しました。その新戦略では、「陸域・海域の30%以上を保護区にして守る」という目標を掲げています。この生物多様性の保持・回復を目指す新たな国際的流れに従えば、環境省が「生物多様性の観点から重要度の高い海域」の一つとして指定した辺野古・大浦湾の海を、基地建設のために国自らが税金を使って破壊する行為は止めるべきです。これは新国家戦略を推進せねばならない日本政府の義務のほうです。「気候変動」「生物多様性の喪失」は人類の生存にさえ関わっています。

以上のことから、私たちは、9月4日に予想される不当判決に対し、知事が再度の設計変更不承認、または埋め立てそのものの承認の再撤回を行っていただくことを心より希望いたします。その理由として、上記の「南部土砂」問題、および生物多様性国家戦略の推進を取り上げていただくようお願い申し上げます。

私たちはどこまでもデニー知事を支え、応援してまいりたいと思っております。

難しい問題もあろうかと思いますが、どうかがんばってください。

埋め立て承認の再撤回など要請
土砂搬出反対協 知事に
 名護市辺野古の新基地建設に伴う埋め立て土砂の搬出候補地の市民団体でつくる「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」は30日、基地建設を巡る訴訟で県が敗訴する見通しとなったことを受け、基地建設反対の要請文を県に提出したと発表した。玉城デニー知事への支持を表明した上で、知事に設計変更の不承認と埋め立て承認の再撤回を求めた。同会は「この故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」として2015年に発足。特定外来生物問題や生物多様性などの環境問題の観点からも、辺野古の海の埋め立てに反対している。

23.8.31 沖縄タイムス
 23・社会面

せうに再度不承認とするか、埋め立て承認そのものの再撤回をするよう求めた要請書を手渡した。同協議会は2015年に発足。辺野古の新基地建設で、国が当初、土砂の大部分を県外から搬入しようとしていたことに、採取候補地域の市民や団体が反対して結成した。19年には全国から集めた60万筆以上の反対署名を国に提出した。

要請文には県外の14団体が名を連ねた。今年3月末に、陸域・海域の30%以上を保護地域などにすることを目標とした「生物多様性国家戦略2023-2030」が閣議決定されたことを踏まえ、「辺野古・大浦湾の海を基地建設のために国自らが税金を使って破壊する行為は止めるべきだ」と指摘している。(沖田有吾)

23.8.31 琉球新報
 25・社会面

設計変更再度不承認を
土砂搬出反対団体、県に要請
 名護市辺野古の新基地建設について、県内外の市民や団体などをつくる「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」は30日、県海岸防災課を訪れ、玉城デニー知事宛に、9月4日の最高裁判決で県が敗訴した場合に、沖縄防衛局の設計変更申請を承認

三上智恵監督 最新作「沖繩、再び戦場へ」(仮題)

長編ドキュメンタリー映画 2024年春完成予定

製作協力金カンパのお願い (締切:2023年11月末)

振込先 郵便振替 番号 00190-4-673027 名義 沖縄記録映画製作を応援する会

お問合せ先 **沖縄記録映画製作を応援する会 事務局**

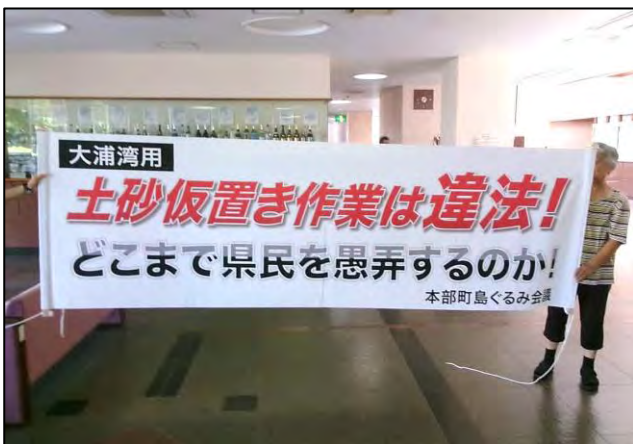
〒160-0022 東京都新宿区新宿5丁目4-1 306号室 東風内

Tel 03-5919-1542 メール okinawakirokueiga@gmail.com

大浦湾側への土砂搬出を許さない！

本部町島ぐるみ会議 原田みき子

塩川港の抗議行動は5月末で2000日を超えた。途中台風で岸壁が破損、安和栈橋からも辺野古へ土砂を搬出するようになり、2ヶ所の抗議行動になって、本部町島ぐるみ会議の負担は倍加した。全国土砂協の皆さんやたくさんの県外の方々の応援が無かったら、1日も休まず続けることは無理だったかもしれない。



ダンプカーの台数をカウントすることで、正確な埋立量を測ることは辺野古の工事の進捗を知る上で欠かせない。このカウントで、7月中旬には辺野古側（浅瀬側）が100%になったことを確認した。私は毎日マイクで「辺野古側は埋立て完了しています。悔しくてたまらないけど、もう終わりです。」と防衛局職員や作業員に知らせるけど、完全無視。8月になってもダンプカーは入ってくる。どうやら最高裁で係争中の大浦湾側の土砂を運んでいるらしい。それも、既に埋め立てられた辺野古側に仮置きする事が分かり北上田さんを中心に、県に「防衛局に仮置きをさせないよう、行政指導すべき」と要請を重ねた。山城博治さんも同行、だんだん県の担当者にも思いが伝わって、とうとう県から防衛局に「仮置き工事をするな」という行政指導を出すことが決定した。そうなれば、県の出先機関である北部土木事務所が、業者に塩川港のベルトコンベアの使用許可をだすことは矛盾

するわけで、8月29日に10名で北部土木事務所に要請に行った。

しかし、「港湾関係法令に基づいて処理する」というだけ。呆れて所長室の廊下に座り込みを決め、3時過ぎまで粘ったが回答無し。解散したら、夕方北上田さんに電話で「ベルトコンベア使用許可を出しました。」と報告があった。この日県は防衛局に行政指導を出した事もあり私達の怒りは沸点に達した。県と北部土木が真逆なことをしている。

翌8月30日、再び人数を増やし、プラカードや横幕も持って結集。「撤回」を求め所長に会おうとしたが総括に「所長は休みです。」と言われ「ベルトコンベア使用許可は撤回して下さい。」と頼んだ。この人物、これまで27回交渉を重ねているが、いろいろ疑問のある職員。「申請者（業者のこと）にも当然配慮しなければならず・・・」と言うので「業者の出先機関なんですか？」と訊いてしまった。結局北上田さんと相談し、後日県庁の土建部長に要請することにし、北部土木事務所を後にした。つくづく、県職員の不一致を痛感させられた。



9月4日、最高裁は民主主義も地方自治も三権分立もかなぐり捨てて県の上告を棄却した。県庁前の抗議集会でも言われているように、裁判がどうであれ軟弱地盤が無くなるわけではない。辺野古新基地建設反対を貫くだけだ。 (23.9.7)

「生物多様性の宝庫」大浦湾の埋立ては、断じて認められない！

辺野古新基地建設反対運動に地元住民の1人として関わり始めてから4半世紀以上が過ぎた。米軍普天飛行場の負担軽減、5〜7年以内の返還という当初の目的は幻と化し、地元のみならず県民の圧倒的反対と技術的困難さに阻まれ、強行すれども工事は遅々として進まず、今や工事のための

工事、「利権の巣窟」となってしまう。私はこの間、辺野古新基地計画はどこからどう見ても「理不尽の塊」だと痛感してきた。



浦島 悦子

論壇

こと②県民の命と暮らし、人権、県土（県民の生存基盤である自然）を守ろうとするまっとうな県政（地方自治）をつぶすために政府が躍起となっていることだ。こと③生物多様性条約批准国として生物多様性国家戦略を制定、今年の新戦略では陸域・海域の30%以上を保護区にして守

辺野古新基地計画は「理不尽の塊」

不当判決に負けてならぬ

るといふ目標を定めながら、世界的に見ても「生物多様性の宝庫」と内外の専門家が絶賛する辺野古・大浦湾の海を、国民の血税を注ぎ込んで壊していること④技術的にも完成は難しいと多くの専門家の指摘を受けながらも工事を強行し、血税の壮大な無駄遣いを続

くの行政学者からも指摘されている辺野古訴訟の矛盾や理不尽はそのまま残っている。私たち地元住民が起こした同内容の訴訟も、それらを争点として継続中だ。

4日の最高裁判決の後、デニー知事は国連人権理事会に出席し、発言するという。2015年、当時の翁長雄志知事は同理事会で「（沖縄の人々の）人権や自己決定権がないがしろにされている」と訴えた。あの当時より、今はさらにひどい状況にあると思う。

不当判決に負けず、デニー知事には国際舞台で堂々と、ウチナンチュの人権・権利を主張してほしい。私たち県民は全力でそれを支え、日本の国に侵害された人権・権利を取り戻そう。

（名護市、75歳）

辺野古埋立工事は「利権の巣窟」、大浦湾の軟弱地盤、県知事の設計変更申請不承認を断固支持します。再度、「不承認」を！ 最高裁の不当判決に負けないぞ！

コンピョンへ 共平海プロジェクトのヨット「ヨナのクジラ」号

濟州島・沖縄・台湾をむすぶ「東シナ海」を共存と平和の海に！

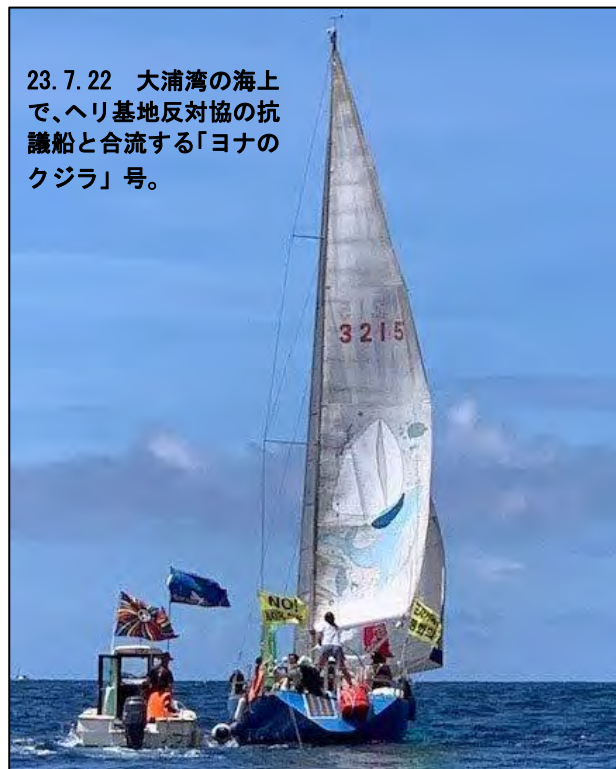
島ぐるみ八重瀬の会 沖本裕司

濟州島・沖縄・台湾をむすぶ「東シナ海」を、軍隊と戦争のない共平海（共存と平和の海、공평해・コンピョンへ）とすることをめざして、6月1日に濟州島を出港したヨット「ヨナのクジラ」号が、奄美、沖縄の島々、台湾を回遊して、9月15日前後に再び濟州島に帰り着く予定だ。3か月余りに及ぶ航路は、夏の炎天、数度にわたる台風、時化による風や波など厳しい自然を耐え完遂された。船長の宋康鎬（ソン・ガンホ）さんはじめ真っ黒に日焼けしたメンバーの皆さん、本当にお疲れさまでした！

参加した後、台風5号と6号の合間をぬって、宮古島—石垣島—与那国島—台湾へ向かい出航した。



23.7.28 「ヨナのクジラ」号。甲板上的韓国の若者。



23.7.22 大浦湾の海上で、ヘリ基地反対協の抗議船と合流する「ヨナのクジラ」号。

ヨットは九州・奄美を経て、辺野古には7月18日に到着した。高さ十数mのマストに帆を張り、「NO！海軍基地」「軍事基地のない平和の島」とハンゲルで書いた黄色のノボリを左右の船尾に掲げたヨットの姿は実に壮観だ。辺野古ゲート前座り込みや大浦湾での海上行動に合流、また歓迎パーティや交流会に

＜濟州島からの出航にあたり出された宣言＞

「韓国と日本と中国の辺境にあるこの三つの島々は東アジアの軍事的緊張の中で新しい軍事基地が建設されています。……私たちはこの海が、すべての生物が人間と共に共生すべき平和の海という意味で共平海と呼びます。……私たちは、この共平海が戦争も軍事訓練も軍艦や軍用機の移動だけでなく武器を搭載したいかなる輸送船も航行できない非武装の平和の海であるべきであり、それは可能だと信じています。……」（抜粋）

2014年に濟州島の江汀村（カンジョンマウル）で第1回「東シナ海」平和の海キャンプが開かれ、濟州島をはじめ韓国、台湾、沖縄から数十名が集まった。船長を務めるソン・ガンホさんは、その時、「ヨットで島々をめぐり非武装平和の海をアピールする」構想を情熱的に語っていた。中古ヨットを購入・整備し、乗船希望者を募り合宿して、平和学習と共に、濟州島を一周しながらヨットの操船技術を学ぶ訓練を何度も行なったという。そして今年ようやく、そ

のプランが実現したのだ。



他方、平和の海キャンプは毎年、辺野古—台湾—

石垣島—濟州島—金門島と場所を移しながら開催されてきた。2020年からの3年間は、コロナ感染による行動規制のために実施されていないが、今年の11月には、4年ぶりに宮古島で開催が予定されている。

小さい島々が大国の犠牲になるような歴史を繰り返してはならない。島々に暮らす人々自身が主権者として、自分たちの島々の未来を決める権利を有している筈だ。「東シナ海」は日本政府、中国政府、ましてやアメリカ政府の所有物ではない。軍国主義の争いの場にしてはならない。共存と平和の海として私たちの手に取り戻そう！ (23. 9. 12)

沖縄からの声

浦添西海岸と米軍港問題

浦添市 西平守伸

2001年、浦添市長が那覇軍港移設受入れを初めて表明し、沖縄県、那覇市、浦添市の三者で那覇港管理組合が発足、埋立ての第一ステージとして自然の海岸を全て埋め立てて、臨港道路建設の予定だったが、市民の反対もあり、北側は橋梁化して、自然海岸は残すことになった。2015年に臨港道路が開通、翌年パルコシティが開業すると、浦添市民のみならず多くの県民、県外観光客も足を運び、広大な干潟や海の生物、自然堆積した砂浜で目の覚めるような夕日に魅

了されることとなった。

幸か不幸か、道路の開通と商業施設の開業によって、これまでは米軍基地の制限水域だった浦添の海が市民県民の手に戻るようになったのである。しかし闘いはこれからである。今年から軍港建設も含めた環境アセスメントが始まる。多くの市民県民の声をバックに、埋立と軍港建設止めていきたい。

(23. 9. 15)

沖縄は無法地帯

浦添市 里道昭美

那覇軍港を返還するので代替地にと指定されている、浦添市の西海岸を守りたい活動をしている、浦添西海岸の未来を考える会の世話人です。

普天間基地返還の代替地・辺野古のように、県内移設で何の基地負担軽減にもつながらない沖縄は、良好な土地は基地に取られているために、山に登るか、海を埋め立てるかで発展するしかありませんでした。浦添西海岸は基地に接収されていた為に、開発されずに残った奇跡の自然海岸です。那覇空港から早い時は15分位で行ける好条件の場所で、飛行機に乗る前にと観光客も立ち寄れる近さに、珊瑚のイノー(リーフ)が見事に広がっている、夕日の絶景スポットです。

沖縄市の泡瀬干潟は、「自然の権利訴訟」で勝利す

ることができましたが、基地との関連が無かったので勝訴することができたのかと思います。

ご存知のように、辺野古訴訟は、政府機関が私人なりすまし等、違法と後ろ指をさされる対応で裁判を汚しているのは政府の方です。日本国憲法の上に日米地位協定があり、裁判所の上に日米合同委員会が存在する沖縄の裁判が、基地関係で公正に裁かれることなどありえません。米兵がらみの事件事故は、今でもほぼ泣き寝入りです。懇談をすれば、まるで米国の代理人のような言いぶりの政府の職員です。だからと言って沖縄の財産である、海と自然を汚されるのを黙ってはいません。

声を上げ続けましょう。(23. 9. 16)

「生物多様性国際戦略 2023～2030」

9月2日、オンライン学習会 開催

辺野古土砂全協事務局次長 立田卓也

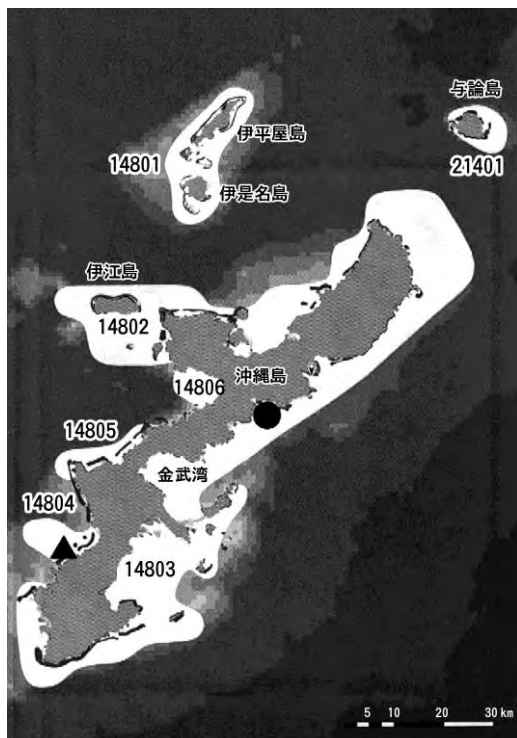
9月2日、「生物多様性国際戦略 2023-2030」に照らせば、辺野古新基地埋立ては中止しかない ～世界的な生物多様性の宝庫をつぶすな！～と題して、当会顧問・湯浅一郎さんを講師に、学習会をオンラインで開催しました。

防衛省の辺野古新基地建設の埋め立て対象海域は、ジュゴンやウミガメの生息に深く関わり、多様なサンゴが生息し、2019年ホープ・スポット(希望の海)に認定された国際的にも貴重な生物多様性を残す場。その海を根こそぎ消滅させる行為が本戦略に抵触することは自明。

まずは沖縄県がこの点を認識し、県民や全国に向けて意義を訴えていくことを期待したい。新たな思いで埋め立てそのものの不承認を打ち出すべきだ。土砂全協は先頭に立って、「陸域及び海域の30%以上を保護地域」にするのなら、辺野古・大浦湾を海洋保護区とし、埋め立ては中止するべきと訴えていく。

国が昨年度末閣議決定した「2030年までに陸と海の30%以上を保護区にする」との行動目標ですが、このテーマは、人類の開発の歴史の反省に立った世界的な動きのなか、1992年リオデジャネイロ地球サミットから起きた、まだ達成出来ない社会変革であること。しかし、気候変動とともに達成していかなければならない普遍的なものであることを解説していただきました。

辺野古新基地建設の新たな不承認への建付けともなりうる本テーマですが、沖縄県内でもなかなか認知されていません。



沖縄島の周辺は ほとんど全て 「生物多様性の観点から 重要度の高い海域」

白い部分が「生物多様性の観点から重要度の高い海域」

●は、辺野古大浦湾。

海域番号[14803]に含まれている。

▲は、那覇軍港移設埋立て予定地の浦添西海岸。

海域番号[14804]宜野湾沿岸に含まれている。

環境省HPで、日本国内の「生物多様性の観点から重要度が高い海域」を見ることが出来ます。

環境省の保護すべき区域抽出「生物多様性の観点から重要度の高い海域」(重要海域)によれば、沖縄島周辺はほとんどが重要海域となっています。辺野古新基地建設や浦添西海岸軍港建設に対しこれらを突き付けていくことができます。

当会としても、沖縄県環境部局や県議に働きかけるなど長期的展開を探っていきたいと思います。

(23.9.20)

キャンプ・シュワブ第4ゲート前から 壊死する辺野古の風景

名護市 中村吉且

辺野古の森を夏の棲家としていたメジロの一家が、戻ってきた。2022年春。しかしそこにあるはずの森は消えていた。メジロの一家は数日、消えた森の跡に設置されたフェンスの上を飛び回ってから、何処かへと去っていった。

米海兵隊キャンプ・シュワブでは、普天間飛行場移設に名を借りた辺野古新基地建設とともに、米軍施設再編工事が行われている。その様子はキャンプ・シュワブ第4ゲート（第4ゲート）周辺から垣間見ることができる。



第4ゲート周辺7.9haが米軍基地内を意味する「米軍提供区域」から、日本政府による工事可能な「日米共同使用区域」に指定変更されたのは2021年6月17日の日米合同委員会である。因みに7.9haのうち7.5haは名護市の市有地となっている。この土地は、一時期は辺野古住民が黙認耕作地として農業を行っていたが、米軍施設再編工事が始まるまでは、戦後70年余りの間に豊かな樹林が生まれ、多くの動植物の生息地となっていた。

名護市長選挙が、辺野古容認派の渡具知武豊市

長の勝利に終わって約2週間後の2月8日、突然第4ゲート周辺で伐採が始まった。たった数日の間にリュウキュウマツ・タブノキ・ハゼノキ等の樹木が次々と切り倒されていく。いや切り倒されるといよりも、重機を使ってへし折っていった。豊かな森からは、命を奪われる生き物たちの悲鳴が聞こえていた。

第4ゲート周辺の工事について当初沖縄防衛局は、辺野古新基地工事とは関係ないと言っていた。その後ここでの工事は新しい商用車用ゲート（工事用ゲート）、そして辺野古弾薬庫改築に連動する新たな弾薬庫道路と、弾薬庫ゲートの新設が明らかになる。確かに辺野古新基地建設工事とは直接は関係ない。しかしそれは、辺野古新基地建設を含めた、キャンプ・シュワブ基地機能拡大以外の何物でもないことが徐々に明らかになっていく。

辺野古弾薬庫工事と新商用車ゲート建設は、セラー球場2個分もの貴重な自然を軍事基地建設のために破壊した。地球沸騰化と言われる今、わずかな自然でも破壊することは許されない。ましてや大量の二酸化炭素が排出される軍事基地建設など許されるべきではない。戦争・軍事基地・軍事基地建設は究極の環境破壊だ。

今第4ゲート周辺では、本来沖縄総合事務局国道工事事務所が行うべき国道の3車線拡幅工事が、沖縄防衛局の手によって行われるという異常な事態も起こっている。政府の言う「沖縄の基地負担軽減」がいかにもやかしであるかは、第4ゲートに来ていただければ実感できる。

第4ゲート周辺工事に関しては拙著「**沖縄 壊死する辺野古の風景**」（頒価500円 注文はtandy0310@live.jpまで）をご一読いただきたい。またフェイスブック「中村吉且」でも日々発信している。 (23.9.20)

7月16日、三上智恵さん講演会開催

辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会 富田正史

7月16日、ジャーナリスト・映画監督の三上智恵さんの講演会を三重県津市で開催し、約200人が参加しました。

私たちは、毎月の駅前街宣とともに毎年、辺野古新基地建設反対をテーマに、集会、デモ、コンサートなどを行ってきましたが、今年は、南西諸島の軍事要塞反対をテーマにしようと、「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」の設立呼びかけ人のお一人・三上さんに講演をお願いしました。講演会の演題は、「ノーモア沖縄戦 琉球弧と日本列島を戦場にしないために」。(ノーモア沖縄戦・えひめの会発行のパンフレットの表題を拝借しました。)



三上さんは、新作ドキュメンタリー映画「沖縄、再び戦場(いくさば)へ」(仮題)を制作中ですが、来年の完成まで待ってられない、刻々と変わっていく状況を共有し、危機感を共有してもらおうという思いからスピノフ作品の上映会向け無料貸し付けを行い、全国で(三重県でも)次々と上映されています。

三上さんはこれまでに「標的の村」「戦場ぬしみ(いくさばぬとうどうみ)」「標的の島 風(かじ)かたか」「沖縄スパイ戦史」と高江、辺野古、先島諸島の基地問題、沖縄戦をテーマとする作品を次々と発表し、数々の賞を受賞しています。

これらの作品の映像(予告編)や石垣でのミサイル等の弾薬搬入阻止行動の映像を見ながら、三上さんのお話を聞きました。

南西諸島のミサイル基地化(軍事要塞化)、南西諸島の各地を拠点(戦場)とする米軍のEABO(遠征前方基地作戦)。これらは、南西諸島の人々を守るためのものではありません。日米両政府は、再び南西諸島を戦場にして、島の人たちが生きていけないようにしています。軍隊は住民を守らない。78年前の沖縄戦と同じです。沖縄では国防の名のもとに、他の都道府県の人たちに保障されている人権が奪われ続けています。横暴なことをするのは米軍だが、それを許してきたのは日本政府です。「台湾有事は日本有事」というのは米国が覇権を守るために作った物語です。それに「本土」の多くの人たちが乗せられています。

三上さんは、「私が映画を作るのは、賞を取るためではなく、基地建設を止め、戦争を止めたいからだ」といいます。「一緒に平和をつくる側になってほしい」という三上さんの思い、沖縄の人々の思いを共有し、何としても戦争を止めなければなりません。琉球弧、日本列島を戦場にしてはなりません。私たちには、中国や朝鮮の人々と殺しあわなければならないいかなる理由もありません。

会場ロビーに置かれたカンパ箱には約11万円5千円もの新作映画製作支援カンパが寄せられ、ヘリ基地反対協議会・辺野古ぶる一の「海上保安官によるボートでの衝突、傷害事件の公正なる捜査と起訴を求める署名」にも多数の方が署名して頂きました。また、三上さんの「証言 沖縄スパイ戦史」(集英社新書)と、辺野古訴訟支援研究会のメンバーなどが執筆した「辺野古裁判と沖縄の誇りある自治 検証 辺野古新基地建設問題」(自治体研究社)などの書籍や、0ビールやてびち、ちんすこうなどの沖縄物産の販売も行いました。

(23.8.1)

軍事要塞と化す大分・九州・琉球弧

大分・敷戸^{しきど}弾薬庫、湯布院^{ゆふいん}長射程ミサイル部隊、 そして日出生台^{ひじうだい}米日共同訓練

大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会運営委員 池田年宏

・大分敷戸に長距離ミサイル用弾薬庫新設

2月、国は大分市鶯野（おしの）の陸上自衛隊大分分屯地（通称「敷戸弾薬庫」）に、大型ミサイル用の弾薬庫を2棟建設すると発表しました。全国で10棟の23年度整備予算58億円の、実に4分の3に当たる45億円が、ここ大分分屯地に割り当てられています。配備されるミサイルは、射程を1000キロ以上に伸ばすよう開発が進められているものも含まれます。

敷戸弾薬庫は大分市街地から約6キロ、周囲に2万世帯4万人が暮らす住宅密集地の真ん中に位置します。各種学校や商業施設、病院もあり、一部は分屯地のフェンスに隣接しています。既存の市民運動団体による抗議声明や、県・市に請願を出す取り組みも行われました。居住地域に先制攻撃を見越した長距離ミサイルや各種弾薬が配備されてはたまらないと、「大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会」が発足しました。集会には会場に250人、海外を含む30人がオンラインで参加し、全国各地や中国領事館からの応援・激励・連帯のメッセージが寄せられました。他市民団体とも連携しながら、学習講演会を重ねているところです。また、情報開示や安全確保を訴える意見陳述をし、市議会での採択を求めました。地元での街宣活動を行ったり、地域で少人数での懇談会を複数箇所で行うよう準備を進めたりしています。国の財務金融委員会でも大分の問題が取り上げられ、防衛省側も渋々ながら地元での「説明」行なおうとしています。

湯布院にミサイル部隊設置

さて、そのような中、全国でも有数の温泉リゾ

ート地である湯布院の自衛隊駐屯地に、現在の部隊に加え290人からなるミサイル部隊を新設する計画が浮上しています。すでに数年前、水陸機動部隊が配置されており、敷戸弾薬庫と連動して、大分が一大攻撃拠点になろうとしているのです。これまで米海兵隊による実弾砲撃演習に一貫して反対してきている地元の市民団体との連携や地元の観光協会への働きかけも視野に入れています。

・2300人規模の日米共同訓練



大分空港に緊急着陸したオスプレイ

また、10月には陸上自衛隊日出生台演習場で日米共同訓練が計画されています。陸自隊員や米海兵隊員ら計約2300人が見込まれ、米のオスプレイも使い、地对艦ミサイルや中距離対空誘導弾などを使った演習も予定されています。県内での日米共同訓練は2月にあったばかりであり、1年間に2回は初めてとなります。22日、演習場ゲート前で集会を予定しています。

米日の戦争態勢づくりを象徴するように、軍事施設の建設、攻撃部隊の設置、共同訓練の実施が同時期に行われ、琉球弧につながる九州全体が軍事要塞と化しています。大分だけでなく、戦争へと向かう国のあり方を問う闘いです。沖縄南西諸島や中国・四国・九州を結ぶ広範な運動の構築が求められています。 (23.9.19)

辺野古土砂全協第 10 回総会報告

辺野古土砂全協事務局長 松本宣崇

第 10 回総会は 6 月 4 日、沖縄県うるま市で開催の予定でしたが、直前の台風 2 号の沖縄接近で航空便欠航が相次ぎ延期を余儀なくされました。日程調整を重ね、結局、7 月 30 日、2020 年以降 4 年連続で ZOOM によるオンライン開催となりました。

総会では、加盟 19 団体のうち 15 団体（委任状 3 団体含む）が出席、個人会員も合わせ全国から 38 名が出席し、盛況のうちに開催出来ました。

総会冒頭、北上田毅当会顧問から、辺野古の現状、とりわけ沖縄県の訴えた訴訟の最高裁判決（9 月 4 日判決が出て沖縄県の敗訴決定）が迫っている緊迫した状況の報告、東アジア研究所 琉球・沖縄センター長瑞慶覧長敏さんの沖縄の歴史、周辺国・地域との歴史的交流、現政権の「台湾有事」論にどう向き合うべきかを提言する緊急報告を頂きました。

総会では、2022 年度活動報告（省略）並びに決算報告を承認し、以下の 2023 年度活動方針並びに予算案、そして一部役員改選について承認しました。

2023 年度活動方針

昨年の第 9 回総会は、「コロナ禍」の影響もあり、予定していた鹿児島・馬毛島訪問が、直前になってリモート開催に変更となった。琉球弧における軍事要塞化の学習議論が深まらない中、昨年 12 月の「安保 3 文書」の閣議決定。続く、今年 1 月の高井弘之さん（愛媛）を講師に迎えての「オンライン学習会」の影響もあり、当会でも、沖縄の人々の危機感が深く共有され始めたと言える。

辺野古土砂問題では、大谷共同代表が度々「安和・塩川大行動」に参加。今年 2 月の「安和・塩川大行動」には共同代表 2 人で参加した。

今総会では、現地の闘いの現状を踏まえて新しい活動の提案を行うとともに、これまでに積み残した課題等についても継続していきたい。

1、遺骨混じりの土砂を埋め立てに使わせない…さらに世論を高め現地の闘いを支援しよう。

現状は、事業者は土砂掘削において県に農地転用の許可を求めるな。この地域の歴史的背景や現状を学び、現地の運動と連携し、政府に南部遺骨土砂による埋め立て計画を断念させよう。

2、土砂搬出各地の監視を怠らないで

いつまた本土各地の土砂が狙われるかもしれない。各地の連携強化を進めて万が一西日本の採石場が再浮上しても即応できる態勢を整えておこう。

3、玉城県知事を支えよう

設計変更申請不承認をめぐる沖縄県の裁判は、年内にも終結し敗訴が確定する可能性が高い。知事が毅然とした対応をとるためにも各地での世論の高まり、沖縄現地でのたたかひの強化が求められる。各種のよびかけにこたえよう。

沖縄県の裁判に関わる裁判官に生物多様性の重要性を訴える活動を進める。

4、現地の闘いを支えよう

現地の闘いは、長年継続されてきた辺野古ゲート前、浜テント、海上行動に加え、埋立土砂が搬出される安和・塩川の闘いが加わった。それぞれの闘いへの支援が求められるが、とりわけ参加者の少ない安和・塩川の強化が必要。



<塩川へ行こう～>

沖縄県外からの抗議行動参加者への助成を行う

(目的) 参加者が少ない安和棧橋や塩川港での抗議行動に加わる県外の参加者を増やす一助にする。

(対象) 沖縄県外から両地区への行動に参加する土砂全協加盟団体、個人に交通費の助成を行う。

- イ) 助成金を求める団体、個人は土砂全協事務局に所定の申請書を提出する
- ロ) 事務局は申請書を受理・確認後、指定された口座に送金する
- ハ) 助成金は一名につき1万円とする
- ニ) その経費は土砂全協で負担することとし、2023年度予算に、30万円を計上する

5、他団体と共同での政府交渉を継続していこう

6、沖縄県土砂条例改正陳情を続けよう

防衛省が本土から沖縄での土砂調達にシフトした背景には、沖縄県の土砂条例がある。「命令規定」「特定以外の外来種対象」などを加えた、同条例強化に向けた取り組みを継続しよう。

7、「安保3文書」改訂に向けた有識者会議のメンバーに、大手メディア幹部・OBが参加するなど、権力を監視するという本来の役割を投げ捨てたマスコミのもとで、琉球弧で急速に進む軍事要

塞化など、国民にとって大切な情報が極めて少なくなっている。このような情勢を踏まえ、

「島々を戦場にすな！沖縄を平和の発信地に！」という沖縄の思いに呼応して、学習と発信を大いに進めよう。

- 8. 生物多様性に関する新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組み」及び「生物多様性国家戦略 2023-2030」で位置づけられた「陸域及び海域の30%以上を保護地域により保全する」、「既に劣化した生態系の30%以上の再生を進める」との行動目標を具現化するために、「生物多様性の観点から重要度の高い海域」をすべて保護区にすることを求めるキャンペーンを進める(「つながる力 No24」湯浅論文と土砂全協意見書参照)。

活動方針3、及び5を進めるにあたっては、この考え方を主張の柱としていく。特に3では、沖縄県自身が司法の場で国と対峙する際の理論的根拠として活かしていくようロビー活動を行う。



役員の一部変更について

事務局次長・八記久美子さんから、体調不良により今総会の終了をもって事務局次長退任の申し出があり、3月1日リモート開催の役員会で、後継事務局次長として立田卓也氏(浦添市在住)を推薦する声がありました。規約上、所属する加盟団体は無くても役員会の承認があれば、就任は可能であり、本役員会では本人の同意を受けて就任を

承認することとしました。

あらためて本人に就任を要請したところ、事務局次長就任に同意しました。よって今総会の場において、立田卓也氏の事務局次長就任を求め、満場一致で承認されました。なお、任期は2024年の第11回総会までとなります。(16頁に就任挨拶)

沖縄を再び戦場にさせない！

11,23 県民大集会

日時 2023年11月23日(木) 12:30スタート 会場 奥武山公園(那覇市)
全県、全国からのご参加をお待ちしております

主催 「沖縄を再び戦場にさせない県民の会」 (共同代表 具志堅隆松氏 瑞慶覧長敏氏)
お問合せ hiro.yamashiro1952@gmail.com 山城博治

2022 年度収支決算報告並びに 2023 年度予算

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会
第8期(2022.4.1~2023.3.31)予算及び決算
並びに次期、第9期(2023.4.1~2024.3.31)予算案


	勘定科目	補助科目	第8期		第9期予算
			予算	決算	
収 入	前期繰越		1,546,396	1,546,396	937,471
	会費		1,300,000	653,000	980,000
		団体年会費	100,000	110,000	100,000
		個人年会費	900,000	533,000	550,000
		協賛団体		10,000	30,000
		総会参加費等	300,000	0	300,000
	事業収入		0	0	0
		辺野古冊子販売	0	0	0
		集会シンポ等	0	0	0
	寄付・カンパ		900,000	657,790	650,000
	雑収入		15	13	10
		雑収入	0	0	0
		受取利息	15	13	10
	辺野古基金助成		0	0	0
合 計			3,746,411	2,857,199	2,567,481

支 出	外注費		0	0	0
	機関紙費		1,025,000	613,590	635,000
		封筒・振替用紙	65,000	15,455	15,000
		印刷費	600,000	388,135	400,000
		発送費	360,000	210,000	220,000
	会議費		350,000	167,380	205,000
		総会費	250,000	105,270	150,000
		役員会	50,000	22,110	25,000
		集会開催費	50,000	40,000	30,000
	旅費交通費		500,000	328,265	350,000
	通信費		15,000	59,957	15,000
	事務消耗品費		10,000	0	10,000
	新聞図書費		3,000	0	3,000
	支払手数料		4,000	4,516	4,000
	寄付金		0	96,000	40,000
	雑費		10,000	3,230	5,000
	物品仕入		0	32,600	0
	事務費		600,000	600,000	600,000
	振替通知料金		20,000	14,190	15,000
	塩川・安和の闘い支援(仮称)		0	0	300,000
合 計			2,537,000	1,919,728	2,142,000
当期残高(次期繰越金)			1,209,411	937,471	425,481

監 査 報 告

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第8期(2022年度)会計を厳正に監査したところ、帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

2023年 4月 9日 監査 互寶 光基 

2023年 4月 30日 監査 土居 立子 

沖縄からの便り
《連載 No.19》
いちやりば
ちよーでー

『台湾有事』を起こさせないために—— 今後も対話を続けよう!!

ヘリ基地いらない二見以北十区の会 浦島悦子



「台湾有事」を起こさせない・沖縄対話プロジェクトの第3回シンポジウム「大陸(中国)との対話」が9月9日、沖縄タイムスホールで開催された。

同プロジェクトは、「中国の台湾侵攻」を前提とした琉球諸島の軍事要塞化が急速に進む中、もし戦争になれば戦場となり、壊滅的な被害を被る沖縄・台湾の市民が対話を重ね、絶対に「台湾有事」「沖縄有事」を起こさせないという声を、政治的立場や意見の違いを超えて一つにしていこうと企画され、今年2月12日に第1回シンポ（沖縄タイムスホールにて）、4月29日に第2回シンポ（琉球新報ホールにて）が、地元2紙それぞれの共催で行われた。

第1回シンポには、台湾から(民進党)政府系シンクタンクの研究者と、民進党に批判的な国民党系の大学教授、第2回には、1回目よりも市民レベルに近いジャーナリストや社会運動家の3人が登壇し、沖縄側パネリストたちと意見交換。台湾側から「自衛隊配備について台湾民衆は歓迎している」「台湾では現状維持への支持が多い」「台湾の人はもっと沖縄戦や沖縄の基地のことを学ぶ必要がある」等の発言があり、互いの違いや、私たちが知らなかった台湾の事情を学ぶことができた。

2回にわたる「台湾との対話」において、「台湾有事」を起こさせない沖縄・台湾の共通認識を確認したが、その中から、「台湾有事」の対立相手とされる中国大陸の人たちの考えを直接聞きたいとの声が起こり、3回目の開催に漕ぎつけた。

第3回シンポの詳しい報告は紙幅の関係でできないが、私の主観的感想では、これまでで一番充実した内容だったと思う。「中国の脅威」が喧伝さ

れる中、中国大陸の人の話を直接聞くのは初めてだったし、沖縄側登壇者が率直な疑問・質問をぶつけ、それに対して真摯に答えてくださったことにも感銘を受けた。キーノートスピーカーとして上海市日本学会名誉会長の呉寄南さんと上海市台湾研究会会長の嚴安林さんが「岸田内閣により日中関係はどん底に陥っているが、全体状況としては制御可能」「中国大陸の台湾政策は平和的統一」などと語り、沖縄側からは香港問題・少数民族問題も含めて質問が出た。

それに対して必ずしも納得のいく答えが得られたわけではなく、「違い」もまた明らかになったが、だからこそ対話し、今後も積み重ねていく意味があるのだと思う。3回とも海外登壇者が男性だったので、女性や若者たちの声も是非聞いてみたい。



なお、3回とも、台湾・中国大陸の登壇者たちは辺野古を訪れ、辺野古浜テントで私が、四半世紀にわたる辺野古の闘いについてお話する機会を得たことも付け加えておきたい。(23.9.16)



立田卓也 (たてだ たくや) 事務局次長 就任挨拶

抗議行動は大変な労力を要します。場所も時間も、抗議する側にその主体があるのではなく、常に権力と金力をもって進めてくるこの国の計画が露わになってから、それはダメだ、止めてくれとの抗議の声を上げています。ですから私たちの行動はとかく反対派と言われてしまいます。

自然環境も民主主義も、酷く破壊された中での、辺野古新基地建設や琉球弧の軍事化。この国が遂行してきた計画や事業とは、自然環境には受忍させ、弱い立場の命には無理を強いる手法とそこから生まれる価値観（多数決、経済至上、自己責任 etc）から、全く転換できていません。観光で来沖する人々が、この地に残る自然環境を「きれいな海」だと感動する姿に、これまで自分たちが壊し殺してきてしまったものの大きさを嘆きます。元々そこの海も同じくらい美しかったのだ…。



そんななか、土砂全協に連なる全国の皆さんのお働きとは、民が主人公の社会・政治の在り方へと作り変える作業、Re・クリエイションだと思います。ぜひ皆さんの再・創造力を11月23日、奥武山公園で開催される「沖縄を再び戦場にさせない！11.23 県民大集会」にお寄せください。

過去の命に励まされ、未来の命に促されて、今を生きる私たちは命の賛成派であることを、今一度確認し合ひましょう。そして、自分の命の主人公である〔私一人・私たち一人ひとり〕で「平和」を創造しましょう。これは力を持つ者たちだけが作るのではなく、誰かにお任せするのでもありません。未だ誰も、完璧につくりあげたことのない「平和」です。

(昨年11月より沖縄県浦添市在、ノーモア沖縄戦・えひめの会会員)

2023 年度会費のお願い

会費 団体：10,000円 個人：3,000円

辺野古土砂全協は皆様のご支援ご協力に支えられ早や8年になりました。闘いはまだまだ続きます。

「不屈」 私たちは決して屈せず、決してあきらめません。ともに闘いましょう！

会員の皆様には2023年度団体・個人会費のお納めをお願いします。カンパ熱烈大歓迎！

— 郵便振替口座 —

番号 01750-8-144158 名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

《辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース つながる力25号》 2023年10月1日

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 阿部悦子（環瀬戸内海会議） hibi_etsuko@yahoo.co.jp

大谷正穂（山口のこえ） masaho1954@gmail.com

編集…松本 宣崇（環瀬戸内海会議）

nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

HPアドレス…<http://stophenoko.html.xdomain.jp/>

事務局…〒700-0973 岡山市北区下中野 318-114 松本方 TEL・fax 086-243-2927

連絡先…〒794-0026 愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 TEL 090-3783-8332

振込先…郵便振替 番号 01750-8-144158 名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会